

二
四
三
本

概要

本書は、綴帖の綴じになっていて右開きである。本の厚さは二・cmあり、背表紙はなく簡単なのり付けがなされている。各ページは一枚の錦絵を厚紙をのせて、さらに薄い紙をその裏に貼り付けているというものである。各ページには一つないし二つの画紙であけられた穴があり、多いところでは上下三つの穴があいているものもある。この穴は、錦絵そのものと、錦絵を直接貼り付けている厚紙にまで達してはいるものの、薄い紙にまでは達していないことを考えれば、本来は厚紙までの二層を、教育の現場で画紙で貼り付け使用して、宮木氏が製本する際に、最後に薄い紙を使用して、製本したものと考えられる。

表紙、ならび裏表紙は、外寸三十六・cm×二十四、五・cmの大判大の大きさである。表紙はボール紙に絹をくるみ、その絹は薄い横縞の当初は利休ねずみであったと思われる。表紙左下の角は損傷がある。右下には長さ十三・cmほどの折れ目が斜めに走っている。右下角には切手大のシールが張られている。シールは三段に区切られ、上段から「へ950」、中段に記述なしの空白、下段「宮243」と黒印がなされている。

表紙を捲ると、見返しが見られる。見返しはもみ紙のプリントとおもわれる。右上隅に上から三・cm、横から一・cmのところは六十六枚という墨書きの文字が見られる。見返しは、見開き左右にわたり、表紙の裏は水平にうきが多数走っている。中央部はセロテープによる補強がなされており、上下から五・cmほどの二等辺三角形のしみが見られる。表紙は本体にしっかり付いており、保存は悪くはないと思われる。裏表紙は右下端が一・cmほど欠けている。裏表紙見開きは左上端に上から七・cm、横から二・cmのところは切手大のシールが張られており、そこには黒字で、ボールペンのように思われるが、「宮木様」と縦で

書かれている。見返しは中央部に十八・cmの切れ目が入っている。

本書の内容は錦絵修身談である。修身における格言のようなものに、浮世絵をそえている。各ページの構成は同じで、浮世絵は約二十二・cm×三十四・cmの内に画が収められ、上段に桃色の地で「錦絵修身談巻」という文字があり、絵の中に、縦長の赤い長方形がありその中に格言が入り、画全体を説明している。左端空白には発行に関する情報が書かれている。それは二列にわたって書かれており、右列は「明治十六年九月二十六日版権免許 編輯 兼出版人東京下谷 練堀町十四番地 熊本懸士族辻敬之」。左列は「同年十月出版同廿一年十一月三日再版 發兌 同所 普及社」となっている。このことから、明治十六年十月に初版が発行された錦絵が、二十一年十一月三日に再版されそれを宮木氏が製本したことが分かる。それぞれの錦絵の状態から、それぞれを教材として教育の現場で使用した後に、宮木氏が製本したものと考えられる。

錦絵修身談の絵師についてであるが、各錦絵の中に「画」と「校」という文字が見られ、制作の上で役割分担がなされていたようである。絵師の名前として、「年方」「年親」「年恒」「年重」「年峯」「年参」の名が確認される。彼等は皆、月岡芳年の門下生である。また絵によっては、「年」の文字が「季」となっていることがある。年方は「應齋年方」・「年方」の落款を押している。錦絵修身談の中で落款を押しているのは年方だけである。(沖本朋子・楠田浩司・安田美世)

《凡例》

帖

- ① 画題
- ② 内容説明
- ③ 制作者
- ④ 状態
- ⑤ 摺

一 一帖目 裏



① 錦絵修身談巻一

(一) 孝子の精誠父の繫獄を救う
一丁

② 暗い闇の中、牢に入れられた男の元に孝行息子が訪れる図。画面左に牢が配され、その中の父に息子は膝をつき話し掛けている。画面を半分に分けるように左斜め上から左斜め下にかけて、一本の木が配されている。

③ 年恒画

季親校

枠外左下に「彫士金」とある。

④ 上部中央に画紙によると思われる穴傷あり。画面左に白い汚れが縦に走っている。

画面右上に「東京文理科大學□□□

□□□□□□」の朱字方印、画面左下に黒字長拳印、その右隣に「88

015213」と鉛筆による書き込みが見られる。また制作者の名が記された枠内下方右隅に「宮木□□」の藍字方印(以下「宮木印C」)あり。十五摺

二 二帖目 表



① 錦絵修身談巻一

(一) 雛よく親鳥を養ふ 二丁

③ 親鶏と雛二匹の図。親鳥を中央画面に大きく配し、二羽の雛鳥を携えている。雛鳥のうち一羽は、画面前方で親鳥からえさを与えられており、もう一羽は、親鳥の後方に位置する。

④ 楓谷年親画

年□校

⑤ 上部中央に画紙によると思われる穴傷あり。上部左隅、摺り色とび多数あり。下方左端、円形の染み汚れ。下部中央より右側及び左側切り落とし部分にそって擦れ汚れ、毛羽立ちが見られる。

枠内下方左に「寄附宮木」の朱字印(以下「宮木印B」)、同じく枠内中部右隅に「宮木印C」、同じく枠内中央右隅よりやや上に「宮木藏書」の朱印(以下「宮木印D」)がある。

⑥ 十三摺

三 二帖目 裏



① 錦絵修身談巻一

(二) 熊の慈愛を視て人業を改む 三丁

② 水の流れる岩山に熊の親子が二匹、血を流してうずくまっている図。足元には数匹の蟹がおり、それらを少し高い岩山から、男が鉄砲を脇に抱えて眺めている。背景には松と大きな岩山が描かれている。

③ 季親画

年□校

④ 右側に染み、擦傷。上部中央に画紙によると思われる穴傷。下方右側に黒のインクの汚れが見られる。中央左隅に転写したインクの剝離あり。下方左隅の制作者の名が記された枠内に「宮木印C」あり。

⑤ 十六摺

四、三帖目表



① 錦絵修身談巻一

(四) 貧婆ふる者ハ反て利を得ず
四丁

「貧婆」の左側に「ムサボル」のルビあり。

② 背景には何も描かれず、五人の児童が描かれている。画面中央左側に、壺に手を突っ込んだ少年が配され、その様子を残りの児童が思い思いの姿勢で眺めている。

③ 應享年恒画

□ 年親校

この名が記された枠外左下に「彫士金」とある。

④ 画面上部中央に画鋸によると思われる穴傷あり。画面左側は擦れによ

る汚れが目立ち、毛羽立っている。小さい朱の色移りがある。

画面左下、制作者の名が記された枠外右下に「宮木印C」あり。

⑥ 十三摺

五、三帖目裏



① 錦絵修身談巻一

(六) 母鹿其子の危難を救ふ 五丁

② 岩山で鹿の親子が三匹駆け下りてくる図。後方

から追ってくる人間に振り向きながらも懸命に逃げようとしている。岩山の間には水が激しく流れ、紅葉した木々が描かれている。

③ 亭齊画

季親校

④ 画面上部中央に画鋸によると思われる穴傷あり。その右側に擦れによる汚れが見られる。枠外右端に毛羽立ちあり。

制作者の名が記された枠内下方右隅に「宮木印C」あり。

⑤ 十五摺

六、四帖目表



① 錦絵修身談巻一

(七) 同心協力ハ勢を生ず 六丁

「同心協力」の左側に「ココロアハセチカラアハセル」のルビあり。

② 拝啓は省かれ、何かを話し掛けている

る翁と、その話を聞いている三人の少年が描かれている。翁は煙管を持ち、近くには煙草盆が配される。その側に三つの瓢箪が描かれており、それに関する逸話をしていると考えられる。

③ □□ 年恒画

校 季親

④ この名が記された枠外左下に「彫士金」とある。

⑤ 画面上中央に画鋸を押した痕があり、画面左上全般に擦れによる汚れ及び毛羽立ちあり。載ち落としのミスがやや目立つ。

⑥ 画面右斜め下に「宮木印C」あり。十三摺



① 錦絵修身談巻一

(八) 鼠蛇を噛みて同類の蟹を報ふ
七丁

② 岩場の穴から覗く蛇の尻尾を噛む鼠の図。灰色の土壁の穴から外に出ている蛇の体を、一匹の鼠が前足で抑えて噛んでいる。画面前方左側には柳の木の幹があり、斜めにかぶさる構図になっている。

③ 季親 画

亭齊 校

④ 上部中央に画鋲によると思われる穴傷あり。下部中央より右側及び左側切り落とし部分にそって擦れ汚れ、毛羽立ちもみ見られる。制作者の名が記された枠内下部に

⑤ 十二摺



① 錦絵修身談巻一

(九) 兄弟死を口ふて危難を免る
八丁

③ 二人の男が槍や刀を持って、地面に座り込んで

いるもう二人の男を威嚇している図。その内の一人は熱心に何かを聞いてもらおうとしているようであり、片一方は困惑した表情をしていることが見て取れる。

④ 口口 年恒画

八. 五帖目 表

⑤

方左隅に擦傷あり。上辺中央に画鋲によると思われる穴傷が見られる。下方左側に黒あるいは青のインク汚れ、また、上部中央やや右にも茶色のインク汚れがある。制作者の名が記された枠外右下に

「宮木印C」あり。

⑥ 二〇摺

九. 五帖目 裏



① 錦絵修身談巻一

(十) 佛道を守りて貧苦を厭はず
十丁

「佛道」の左側に「ヨクアニ□カヘル」、「貧苦」の左側に「マツシキク

②

背景は省かれている。画面左には紋付袴の髻を蓄えた教師が立ち、一人の生徒が土下座をshている。画面中央右側に二人の生徒が描かれ、一人は静観し、もう一人は教師に何か話し掛けようとしている。

③ 年方画

年親 校

④

画面上部中央に画鋲によると思われる穴傷が二つ。またその左側に液体による汚れがある。下方右側には擦れによる汚れが目立つ。

制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」

がある。

⑥ 十二摺

十 六帖目表



① 錦絵修身談巻一

(十二) 犬主人の言を守て忠孝を完ふす 十丁

② 野道に面する民家の入り口に座る犬の図。座る犬の正面に子犬が現される。左側後方には二軒の民家と水田が広がっている。

③ 口親画

亭齊校

④ 上部中央に画紙によると思われる穴傷あり。画面枠外の切り落とし部分にそって、別紙の貼り残し及び擦り汚れ、毛羽立ちなどあり。画面右下に「宮木印C」あり。

⑤ 十一摺

十一 六帖目裏



① 錦絵修身談巻一

(十二) 孝子の精誠能く猛獣を却く 十二丁

② 岩が剥き出しになっている山道で二人の男が背丈倍以上もある巨大な虎と遭遇する図。内一人の男は棒切れで虎を追いやろうと格闘しているが引け腰で、もう一人の方は恐怖のあまり逃げ出そうとしている。

③ 季親画

年峯校

④ 綴じ側にそって、染みと擦傷が見られる。上部中央に画紙によると思われる穴傷があり、錆になっている。制作者の名が記された枠外下部に「宮木印C」が見られる。

⑥ 十四摺

十二 七帖目表



① 錦絵修身談巻一

(十三) 孝を心思の間ふ盡す 十二丁

② 画面右側に杖を振り上げた老人が、画面左下で膝をつき頭を下げている若者に、叱咤している図である。画面上部左には垂れ幕を松木が描かれている。

③ 年方画

年親校

④ この名が記された枠内中央やや右よりに「年方」の落款がある。画面中央上部に画紙を押した痕がある。枠外左端に毛羽立ちが見られる。下方右端に黒ずんだ汚れあり。制作者の名が記された枠外右上に「宮木印B」、枠内右下に「宮木印

「宮木印B」、枠内右下に「宮木印

C、枠外左隣に「宮木印D」が見られる。

⑥ 十四摺

十三 七帖目裏



① 錦絵修身談巻一

(十四) 猿恩を報ふ 一三丁

② 場面は夜である。画面下半分に猿の集団が描かれ、その中の一匹が赤い鞘の刀を抱えている。画面右斜め上部には蠟燭を持った禰袿姿の男が、屋内の光でもって明るく描かれている。恐らく猿に起こされたのではないだろうかと推測される。

③ 季親画

年峯校

この名が記された枠外右下に「彫土

金」とある。

④ 画面中央上部に画鋸によると思われる穴傷あり。右端全体に毛羽立ちが見られる。「錦絵修身談巻二」の「談」左上に墨による汚れあり。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑥ 十六摺

十四 八帖目 表



① 錦絵修身談巻二

(一) 一杯の水芳名を千歳口遺す 一丁

② 荒涼とした戦場にて、傷を負った兵士三人の図。画面中央、一人は担架の上に座し、仲間の兵士より一杯の水を与えられている。三人目の兵士

が後方からこれを見やる。彼らの背後には、立ち上る白煙と一棟のテントが確認できる。

③ □□ 年恒画 校 季□□

④ 上部中央に画鋸によると思われる穴傷及び錆汚れ多数あり。上部左隅、画面の枠線に黒滲みあり。中央右隅、横に伸びる白汚れあり。また、画面中央に立つ兵士の腰辺りの背景に摺り残しと思われる部分がある。切り落とし部分にそって、擦れ汚れや毛羽立ちあり。制作者の名が記された枠内左下に「宮木印C」あり。

⑤ 十五摺

十五 八帖目 裏



① 錦絵修身談巻二

(幸子食を路口乞ふて其の情を達す 二丁

② 人のたくさん行き交う通りで幼子が裕福そう な身なりをした男に物乞いをしている図。幼子は、わらじと下駄という両足異なる履物で、継ぎ合わせたボロの着物を着ている。一方の男は、帽子を被り、ステッキを持った構成で、背景の空には満月が描かれている。

③ □□ 年恒画 季親校

④ 右辺、下辺全体にわたって汚れと擦傷が見られる。上部中央に画鋸によ

ると思われる穴傷があり、その痕跡が錆びとなっている。

⑥ 十五摺

十六 九帖目 表



① 錦絵修身談巻二

(四) 愈仲寛の仁一州の俗を風化す 四丁

「風化」の左側に「ナホス」のルビあり。

② 愈仲寛という人物が玉座に座し、家来たちの前で何かを説いている様子である。画面左側に立つ一本の柱と画面上方に掛かる幕のような役

割をしている布により、室内を表現していることが分かる。

③ 年重画

年親

年口

校

④ 左端、下辺全体に毛羽立ちが見られ、茶色に変色している。上部右側に汚れあり。

制作者の名が記された枠外右下に

「宮木印C」がある。

⑤ 十四摺

十七 九帖目 裏



② 三人の旅人が大木の陰で一息ついている図。二人は腰掛け話をし、もう一人は立ち、汗を手拭いで拭いている。腰掛けているうちの一人は上半身裸であり、もう一人は円模様をあしらった着物を着ている。立っている男は縦縞模様の衣服である。

③ 人物 年恒画

校 年親

この名が記された枠外右下に「彫土」とある。

④ 右辺全体が黒く汚れ、擦傷が見られる。特に下部はひどい擦傷である。中央上部に画紙によると思われる穴傷があり、その痕跡が錆びによって分かる。

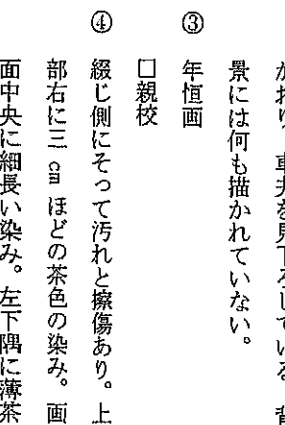
制作者の名が記された枠内左下に「宮木印C」がある。

⑤ 二五摺

① 錦絵修身談巻二

(六) 車夫親を愛して巡査の恵を得

七丁



十八 十帖目 表



二等分されており、その下部中央に「宮木印C」がある。

⑤ 一九摺

十九 十帖目 裏



① 錦絵修身談巻二

(七) 虚母孝子をして李樹を守らしむ 八丁

② 強風の中、李の樹の傍で幹に手をかざし、腰を低くして立つ青年の図。

画面上方から李の実った枝がなびいている。

③ 季□□

季□□

季 親 校

④ 中央上部に画紙によると思われる穴傷及び円形の錆び汚れあり。上方

① 錦絵修身談巻二

(五) 旅人楓樹の下□憩ふ 六丁

左側、「巻」の文字に三〇ほどの大きな染みが確認できる。下方左隅及び上方左隅に、別紙の貼り残しあり。制作者の名が記された枠内右隅に「宮木印C」がある。

⑤ 二〇摺

二十、 十一帖目 表



① 錦絵修身談卷五

(十) 徳をかくして報を受けず 十四丁

「徳」の左側に「メグミ」のルビあり。

② 四人の人物が川を渡る図。頭部に鉢巻を結び、画面上方左の四人の男性

が立つ岸を目指し、流れの速い川を幾人かの人間を背負った男が突き進んで行く様子を描いている。

③ 年重画

年親校

年□

④ 中央上部に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れ多数あり。左端及び下方に別紙による貼り残しあり。制作者の名が記された枠外右隣に「宮木印B」、枠内下方両端に「宮木印C」が二つある。

④ 年重画

中央上部に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れ多数あり。左端及び下方に別紙による貼り残しあり。制作者の名が記された枠外右隣に「宮木印B」、枠内下方両端に「宮木印C」が二つある。

中央上部に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れ多数あり。左端及び下方に別紙による貼り残しあり。制作者の名が記された枠外右隣に「宮木印B」、枠内下方両端に「宮木印C」が二つある。

中央上部に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れ多数あり。左端及び下方に別紙による貼り残しあり。制作者の名が記された枠外右隣に「宮木印B」、枠内下方両端に「宮木印C」が二つある。

中央上部に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れ多数あり。左端及び下方に別紙による貼り残しあり。制作者の名が記された枠外右隣に「宮木印B」、枠内下方両端に「宮木印C」が二つある。

中央上部に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れ多数あり。左端及び下方に別紙による貼り残しあり。制作者の名が記された枠外右隣に「宮木印B」、枠内下方両端に「宮木印C」が二つある。

⑤ 一三摺

二十一、 十一帖目 裏



① 錦絵修身談卷二

(十二) 篤實の行 郷人を感化す 一三丁

② 一人の男性が家畜小屋の前で牛にえさを与える様子が描かれている。後方の垣根からこの男性の行いを腕を組んで覗き見ている人物が恐らく郷人であると思われる。

④ 年方画 年□校

年親

この名が記された枠内中央やや上に「應齊年方」の落款あり。

⑤ 中央上部に画鋸によると思われる穴傷。左端の毛羽立ちが、茶色くなっている。画面中央やや左上に鉛筆による英字の走り書きが見られる。制作者の名が記された枠内右下に

この名が記された枠内中央やや上に「應齊年方」の落款あり。中央上部に画鋸によると思われる穴傷。左端の毛羽立ちが、茶色くなっている。画面中央やや左上に鉛筆による英字の走り書きが見られる。制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」がある。

⑥ 十五摺

二十二、 十二帖目 表



① 錦絵修身談卷三

(十三) 幼児身を以て父を贖ふ 十六丁

② 家の軒先にて、画面右側に背を向けて立つ父親と、左側に座し、竹茎に挟んだ紙幣を父親に差し出す三人の幼児の図。

③ 年方画

年親校

④ 上部中央「身」の文字の部分に画鋸によると思われる穴傷及び斜めに掛かる染み汚れあり。四方切り落と

し部分にそつて、別紙の貼り残しあり。父親の頭部左側に黒い染み汚れあり。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」あり。

十四摺

⑤

二十三、十二帖目 裏

二卷談身修繪錦



① 錦絵修身談巻二

(十四)馬主人の言辭に感じて身命を委てこれを救ふ 十六丁

② 日のない時刻に、馬が飼主である男をくわえて勢いよく駆けぬけている。馬が画中中央に大きく描かれ約三分の一を占めている。男は馬にお尻をくわえられ、手足を地面

にだらりと下ろしている。

③ 事齊画 季親校

④ 綴じ側にそつて染み。右辺全体に擦傷あり。中央上部に画紙によると思われる穴傷あり、錆びが見られる。上部右端にインクの筋のような縦縞がある。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑤ 十七摺

二十四、十三帖目 表

二卷談身修繪錦



① 錦絵修身談巻二

(十五)忍耐に□□さ□□バ大事を遂ぐること触□ず 一八丁

② あばら家の中で胡座を掻く中国の

鎧を身に着けた武将の図である。画面左の壁には蟻の行列が描かれ、武将はそれを眺めている。

③ 年方画 年親校 年□

④ この名が記された枠内右下に「應齊年方」の落款あり。

⑤ 画面上中央に画紙によるものと思われる穴がある。画面中央より少し上に汚れあり。また載ち落として失敗しており、画面左の画面外の文字が落ちている。

制作者の名が記された枠外右下に「宮木印C」がある。

⑤ 二〇摺

二十五、十三帖目 裏

三卷談身修繪錦



① 錦絵修身談巻三

(一)孝子の丹誠虐母慈心を生ず 一丁

② 中国風の建物の中での出来事が描かれている。画面左下に乳飲み子を抱え、衣服の裾で顔を隠した女性が描かれている。その女性を叱責する男性が画面左下に描かれ、その間に子供が仲裁に入っている。また母の背後の子供は、その様子に困惑している様子である。

③ 季峯画 とし親校

④ この名が記された枠外左下に「彫工岡清」とある。

⑤ 画面中央上部に画紙によると思わ

れる穴傷あり。画面下半分が茶色く薄汚れている。

制作者の名が記された枠内左下に

「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

二十六、① 十四帖目表



② 錦絵修身談巻三

(二) 飲食を節せざれば長壽を保ち

得ず 三丁

③ 「長壽」の左側に「ナガイキ」のルビあり。

④ 日本の屋内の様子で、画面右に鳥を腑分けした老人が、画面左の人物に何かを渡す様子が描かれ、その様子を画面左に描かれた人物が覗き込

③ んでいる。

□ □

年方画

楓谷

季親校

④ この名が記された枠内右下に「應齊年方」の落款あり。

⑤ 画面中央上部に画鋸を押した痕があり、また截ち落とし画がずれてい

る。

⑥ 制作者の名が記された枠外右下に

「宮木印C」、画面下方左隅に「宮木

印D」がある。

⑦ 十三摺

二十七、十四帖目裏



① 錦絵修身談巻三

(四) 孝子の真情悪人を感化す 五

丁

② 家の中の父親と息子の図。無精髭を生やし、画面中央で食事中の父親は、左奥で正座し手を合わせ祈る息子の方を見やっている。壁には亀裂が走り、襖や障子の所々が破れている。

③ 年重画

年親校

④ 画面中央上部に画鋸によると思われる穴傷が上下に二箇所。下方右の画面枠の黒線に滲み、下方左隅に毛

羽立ち及び擦れ汚れ。制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」。

⑤ 一八摺

二十八、十五帖目表



① 錦絵修身談巻三

(五) 畜狗命を捨て、主の遺金を守る 九丁

② 犬が馬の尻尾をくわえて行く手を阻もうとしている図。画面中央に大きく描かれた馬に男がまたがって、犬を見下ろしている。男は刀をさし、甲冑模様の着物を身に付けている。背景は湖であろうか、山々が遠くに広がっている。

③ 亭齊画

季親校

④ 上部右辺、左辺にそれぞれ汚れ、擦傷があり、茶色くなっている。中央上部に画鋸によると思われる穴傷あり。画巾上方に筋状の汚れが見ら

れる。

⑤ 画面下方右隅に「宮木印C」がある。
一八摺

二十九、十五帖目裏



① 錦絵修身談巻三

(九) 市女壁虎を見て過を悔て貞婦となる 十五丁

② 背景に壁板を外した屋内が描かれ、そこには釘に打ち付けられ死んでいるヤモリがいる。それを指差す老人と、その様子に驚く大工が、画面左右にそれぞれ描かれており、画面斜め下にはその事を悔いて、膝をつき涙する市女が描かれる。

③ 亭齋画

季親校

④ 画面中央上部に画鋏によると思われる穴傷あり。画面枠外下方左隅に「十五」という鉛筆による書き込みがある。

⑥ 十六摺
制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

三十、十六帖目表



① 錦絵修身談巻三

(十二) 了介馬子の事を聞て良師を得 廿丁

② 建物の戸口で手前の男性が、建物の中から顔を出す男性に小包を手渡す図。手前の男性の右脇に顔を覗か

せる馬が見える。

③ □□
年方画
楓谷
季親校
この名が記された枠内中央下部に「年方」の落款あり。

④ 中央上部に画鋏によると思われる穴傷と円形 の錆び汚れあり。

⑤ 上方左側、枠線の途切れ、擦れによる汚れあり。下方右側に別紙の貼り残しが見られる。

⑥ 制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。
十五摺

三十一、十六帖目裏



① 錦絵修身談巻三

(十二) 法師親を思ひて川口漁りす 廿二丁

② 法師が手足をまくり、川に入って網で魚を掬っている図。川の幅は一人であらうが、その割に流れは速いと思われる。画面中央を木が横切っている。背景には人差し指を指す二人の男が描かれている。彼らは腰に刀をさしている。

③ □□画
校 年親

④ 上部右辺にひどい擦傷があり黒ずんでいる。上部中央に画鋏によると思われる穴傷があり、錆びている。

画面全体が擦傷によるものか、黒く汚れており、インクの発色を妨げている。

制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

三十二 十七帖目 表



① 錦絵修身談四

丁 (一) 幼児主の為^{ため}に罪^{つみ}を畏^{おそ}れず

「幼児」の左側に「コドモ」というルビあり。

② 髷を結った男が刀に手をやり、腕いた幼児に人差し指を向けている。男の傍らで着物を着た女がちようち

三十三 十七帖目 裏

んを上方に向けて幼児を見ている。背景に松があり、ちようちんの光で照らされている。夜であろうか、辺りは暗くなっている。

③ 年重画

年親校

年〇

④ 上辺と右枠外側が目立って黒く汚れ、擦傷、毛羽立ちも見られる。中央やや上方にインクの染みあり。中央上部に画紙によると思われる

穴傷があり、錆びている。

画面枠外右下に「宮木印B」、制作者の名が記された枠内中央下部に「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺



① 錦絵修身談卷四

丁 (二) 孝子親に事^{こと}へて煩^{わづら}を厭^{いと}はず

② 場面は日本家屋の一室で、病気に臥

せている老婆に青年が膝をつき用件を伺っている。おそらく老婆の息子と思われる。背景に壁に隠れて

姿は見えないが、煙管を手にし、煙草盆に灰を落とす人物が描かれている。

③ 年方画

年親校

この名が記された枠内中央やや右に「年方」の落款あり。

④ 画面上中央に画紙を押しした痕がある。下方右全体にわたって毛羽立ち

が見られる。

制作者の名が記された枠内中央下部に「宮木印C」がある。

⑤ 十五摺

三十四 一八帖目 表



① 錦絵修身談卷四

示^{しめ}す (三) 孟母猪肉を買^かひて偽^{いつわ}らざるを

② 室内に女性と稚児が向かい合う図。

女性の手には、猪の肉が盛りられた器を載せた盆が描かれている。画面右端には、猪をさばいたままの隣の部屋の様子が窺える。

③ 年重画

年親校

年口

- ④ 中央上部に画紙によると思われる穴傷あり。上方左側の擦り汚れ及び毛羽立ちあり。下方切り落としの部分にそって、別紙の貼り残しがある。制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

三十五 一八帖目 裏



① 錦繪修身談卷四

(四) 粗食そしょくかん却りて美味びみとなる 七丁
 「粗食」の左側に「マツキクヒモノ」、
 「美味」に「ウマミ」というルビあり。

② 日が完全に沈みきった岩山で二人

の男が饅頭のようなものを食べている図である。彼らはカールした長

髪に赤いマントを着てブーツを履いている。背景には煙が空高く立ち昇っており、槍を高く振りかざした者たちが見える。

③ 年重画

年親校

年口

- ④ 下辺右端に擦傷があり、茶色に変色している。綴じ側も同様。中央上部に画紙によると思われる穴傷が二つある。画面の地面に印刷のための横縞が見られる。下方左隅枠外に鉛筆で「一八」の書き込み。制作者の名が記された枠内下部やや右に「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

三十六、一九帖目 表



① 錦繪修身談卷四

(五) 人の窮死きゆうしを救ひて主人あしの賞しょうを得 八丁

- ③ 場面は日本家屋である。登場人物は三人で、何かを報告しようとしている使用人が画面左下に、その報告を受けている主人が火鉢の側に座り、その側で女性が使用人を見ている。

④ 年重画

年親校

年峯

⑤ 中央上部に画紙によると思われる穴傷あり。綴じ側にそって滲み汚れ、茶色に変色している。制作者の名が記された枠内右側に「宮木印C」。

⑥ 十七摺

三十七、一九帖目 裏



① 錦繪修身談卷四

(八) 文侯ぶんこう信しんを踐ふみミテ國くにを興おこす 十三丁

- ② 画面中央やや左、室内に立つ文侯の図。画面右に座す五人の役人と言葉を交わす。外は暗く、雨が降っている。

③ 年重画

年親校

④ 中央上部に画紙によると思われる穴傷あり。左右切り落とし部分にそって、別紙の貼り残しあり。画面枠外下方左隅に「一九」という鉛筆による書き込み。制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

「宮木印C」がある。

⑤ 一九摺

三十八、二〇帖目表



① 錦絵修身談巻四

(九) □女志を□して裁縫に達□ 十四丁

② 明かりを持った侍女が、和尚と三人の男がいる部屋の襖をまさに今開けたところを描いている。三人の男たちは侍女の方を向いている。和尚の向かって右に蠟燭台が置かれていたが、火は灯っていない。

③ 年重画

年峯校

年親

④ 上辺に汚れと擦傷あり。薄茶色に汚

れている。画面下方右隅に黒いインク

の汚れあり。中央上部に画鋲によると思われる穴傷があるが、錆びている。

制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」がある。

⑤ 十七摺

三十九、二〇帖目裏



① 錦絵修身談巻四

(十二) 誠忠反りて大勇□優る一八丁

「誠忠」の左側に「マコト」というルビあり。

② かぶとを身にまとった武将が三人登場している。一人は椅子に座して

左手を横に広げ、人差し指を伸ばし

て何か指示を下している様子である。他の武将二人は地面に屈み、その指示を受けている。画面左上には、葵紋が施された垂れ幕または旗が翻っている。

制作者の名が記された枠内下部や

や右よりに「宮木印C」がある。

③ 年重画

年親校

年峯

④ 中央上部に画鋲によると思われる穴傷あり。下方右側の擦れによる汚れ及び毛羽立ちあり。下方左隅に数

点の染みが見られる。また画面枠外下方左隅に「二十一」という鉛筆の書き込みがある。

制作者の名が記された枠内下部や

⑥ 二〇摺

四十、二二帖目表



① 錦絵修身談巻四

(十二) 信を守りて人の急を救ふ 十七丁

③ 場面は中国である。登場人物は五人で画面左に男が立っており、其の者がいる事から位の高い人物と思われる。その人物に対し、乳飲み子を抱えた夫婦が何かを報告している様子が描かれている。

④ 年重画

年親

年峯校

⑤ 画面上部中央に画鋲を押したことによると思われる穴傷がある。また截ち落しがずれていて、画面左に擦れによる汚れがある。

制作者の名が記された枠内下部や
や右に「宮木印C」がある。

⑤ 十五摺

四十一・ 二二帖目 裏



① 錦繪修身談卷四

(十三) 孝婦 初を散して 姑を慰ましむ 一九丁

② 画面中央に老婦が腰を曲げて地面の初を集める図。少し離れて上部右側に初を持つて老婦を見つめる女性性が立っている。

③ 年重画

年親校

年〇

④ 上部中央に画紙によると思われる

穴傷あり。上 方及び下方の左隅に別紙の紙片が貼り残されている。下方右隅から中央にかけて、擦り汚れ及び毛羽立ちが見られる。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑤ 十二摺

四十二・ 二二帖目 表



① 錦繪修身談卷四

(十五) 婦去を乞ひて 親善に翻る 廿三丁

② 米が満杯になっている樽の傍で女性が正座している図。その前にはマスが二つ並べて置いてある。マスには斜めにしきりがなされている。右後

方に青いのれんが掛かっている。應〇

③ 年方面

年親校

この名が記された枠内右下に「年方」の落款あり。

④

綴じ側にそって汚れと擦傷。左側上部にひどい擦傷。薄茶色に汚れている。上部中央に画紙によると思われる穴傷あり、茶色に錆びている。枠外下方右隅に「二十一」の書き込み。その書き込みの上部に「宮木印B」、制作の名が記された枠外右下に「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

四十三・ 二二帖目 裏



① 錦繪修身談卷五

(一) 夫婦儉を守りて 國恩に報ゆる 一丁

② 付持の人物が五人描かれている。画面左上に衝立が、登場人物は画面右に四人の人物、画面左下に一人の人物が配される。画面左下の人物は、四人の人物に包みを差し出し四人の人物は相談しあったり、驚いたり、その包みを差し出す人物の話を聞いたりしている。

③ 應〇

年方面

年親校

④ 画面上中央に画紙によると思われる穴がある。下方に毛羽立ちあり。

枠外下方左隅に「二二二」という鉛筆による書き込み。

制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」がある。

⑤ 十五摺

四十四 二三帖目 表



① 錦絵修身談巻五

(一) 廉潔を守る者ハ猥に人の贈を受けず 三丁

② 場面は中国である。壁や床にはひび

がはいり、壁は所々剥がれている。三人の人物が描かれ、質素な服を着た人物に、何かを贈ろうとしている人物、そして贈り主に仕えている人物が描かれている。

③ □□

年方画

季親校

④ 製本の際の載ち落としが少々ずれている。上部中央に画紙によると思

われる穴がある。

制作者の名が記された枠内左下に

「宮木印C」がある。

⑤ 十七摺

四十五 二三帖目 裏



① 錦絵修身談巻五

(三) 兄弟力を合せて盲父を養ふ 四丁

「盲父」の左側に「メクラオヤ」のルビあり。

② 土壁に亀裂が入り、障子にも穴があった家中で父親と見られる盲の男性が薬仕事をする図。庭先には三人の子どもが見える。

③ 季□□

季親校

④ 上部中央に画紙によると思われる穴傷あり。下

方及び左隅、切り落とし部分にそれぞれ別紙の貼り残しや、擦れ汚れ、毛羽立ちあり。枠外下方左隅に「二二三」の鉛筆による書き込み。制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」

がある。

⑤ 十七摺

四十六 二四帖目 表



① 錦絵修身談巻五

(四) 人其の守る□を失□ざる之を□とす 六丁

② 三人の男性が台座の上に置かれた宝玉を囲む図。手前の人物は右手の人差し指を挙げ、画面中央に座す人物の方へ視線を投げ掛けている。場面は大座か。

③ 年重画

年親校

年□

④ 上部中央、画紙によると思われる穴傷及び錆び汚れが四箇所に確認できる。上方右隅に別和紙が貼付いている。左隅、上方から中ほどにかけて、こすれによる繊維の毛羽立ちあり。

制作者の名が記された枠内下部や
や右よりに「宮木印C」がある。

⑤ 十三摺

四十七、二四帖目 裏



① 錦絵修身談巻五

(五) 幼女^{ようぢよ}兄^{あに}を愛^{あい}して白刃^{やいば}の下^{もと}に立^たつ 八丁

② 若い男の手首を掴み、今にも刀を振りかざそう とする男に幼子がすりより、包みを差し出している図。背景の障子が開かれその後ろにいる人物が影になって映っている。

③ 季□□

季親校

この名が記された枠外左下に瓢箪

型をした中に「ホリキリ」とある。

④ 左側、下部に擦傷、毛羽立ちあり。中央下部に染み。中央上部に画鋏によると思われる穴傷。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑥ 十五摺

四十八、二五帖目 表



① 錦絵修身談巻五

(七) 勤苦^{きんく}の恩恵^{おんけい}衆人^{しゅうじん}を喜ばす 十丁

「勤苦」の左側に「ツトメ」、「恩恵」に「メグミ」、「衆人」に「オホクノヒト」のルビあり。

② 岩肌の剥き出しになった険しい山

で職人のようないでたちをした男が鋸を片手に木材を切っている途中、顔に手をやって景色を見渡している図。日は沈み、辺りは薄暗くなっている。左端に湖が見える。

③ 年□画

□□親校

④ 左側に擦傷。中央上部に画鋏によると思われる穴傷あり。下方右隅の枠外に鉛筆による「二十四」の書き込みあり。

⑤ 十七摺

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

四十九、二五帖目 裏



① 錦絵修身談巻五

(十二) 石介道^{せいかいみち}を守りて美食^{びしょく}を受けず 十六丁

② 中国が場面である。室内から外を望む窓辺で本を読んでいる人物が、画面右に配される。その人物に食事を運ぶ人物が画面左に配されている。

④ 季□画

季親校

⑤ 画面中央上部に画鋏によると思われる穴傷あり。画面下部右隅が擦れて汚れている。

制作者の名が記された枠内左下に「宮木印C」がある。

⑥ 十七摺



① 錦絵修身談巻五

(十二) 村翁私財を抛ちて凶荒を賑す 一九丁

「私財」の左側に「ワタクシノタカラ」、「凶荒」に「キ□□□」というルビあり。

② 時は夜、二人の男性が手にたいまつを握り、一人は竹槍を持っている。

③ □齊□ 季親校

④ 上部中央に面紙によると思われる穴傷及び錆び汚れあり。上方右側の画面枠の黒線は、擦れにより消失している。枠外右下に「二十□」の鉛筆による書き込み。 制作者の名が記された枠内中央下

⑤ 十二摺



五十一、二六帖目 裏

① 錦絵修身談巻五

(十三) 婦女鴻儒の教を受けて多年の憂を解く 廿丁

「婦女」の左側に「ランナ」、「鴻儒」に「ダイガクシヤ」のルビあり。

② 路の端で家来を引き連れた馬に乗った男が、土下座をする女を見下ろしている。女の後ろに牛が木につながれている。背景に山々と田畑が広がっている。

③ □□ 年方画

この名が記された枠内右下に「應齊年方」の落款あり。

④ 中央上部に面紙によると思われる穴傷あり。下方右隅に別紙による貼り残しが見られる。

制作者の名が記された枠内下部に「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

五十二、二七帖目 表



① 錦絵修身談巻五

(十五) 齊王賢女を吠吠に挙ぐ 廿七丁

「吠吠」の左側に「キナカ」のルビあり。

② 賢女が木の葉を摘んでいる様子である。賢女は画面下中央より少し右に描かれ、背景に彼女を迎えにきたと思われる齊王の一行の行列が描かれる。

③ □□ 年方画

年親校

この名が記された枠内下方右に「年方」の落款あり。

④ 画面上中央に面紙によると思われる穴がある。截ち落としが少々ずれている。枠外下方右隅に「二十一八」の鉛筆による書き込み。

制作者の名が記された枠内左下に「宮木印C」がある。

⑤ 十六摺



① 錦絵修身談巻五

(十六) 良将ハ士卒を愛する□と親族より優る 廿八丁

② 場面は日本である。登場人物は六人で画面左に病に伏せている人物が

二人、その様子を見ている人物がその側に二人描かれ、見舞いに来た位の高そうな武将が右に配され病人を気遣っている。

③ □□

年方面 年親校

この名が記された枠内中央やや上に「年方」の落款あり。

④ 画面上中央に画紙を押した痕がある。位の高い武将の上に鉛筆による線が入っている。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑤ 十五摺

五十四 二八帖目 表



① 錦絵修身談巻五

(十七) 孝子辛苦の為に家を去らず 卅丁

② 若い男あるいは幼児が庭の落ち葉を箒で掃いている図。その様子を家

の中にいる女が窓から見守っている。男は中国風の衣服のような長いスカート状のものと、その下にズボンをはいている。

③ 年重画

校年親

④ 右辺、左辺共に汚れ、擦傷、毛羽立ちあり。特に綴じ側にそって茶色の染みが目立っている。上部左側の背景に茶色の汚れあり。上部中央に画紙によると思われる穴傷があり、錆びて黒ずんでいる。

制作者の名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑤ 一九摺

五十五 二八帖目 裏



① 錦絵修身談巻五

(十八) 二人功を譲りて互に賞を得 卅丁

「功」の左側に「□ガラ」のルビあり。

② 日本の合戦の一場面である。画面左の松の前で屋に打たれた人物が倒れようとしており、その矢を放った馬に乗った武将が画面右に描かれている。

③ □□

年方面

年親校

この名が記された枠内右下に「年方」の落款あり。

④ 中央上部に画紙によると思われる穴傷あり。下方右隅が毛羽立ち黒ずんでいる。

制作者の名が記された枠外左下に「宮木印C」がある。

⑤ 十五摺



① 錦絵修身談巻五

(一九) 義僕主と艱苦を共にす 卅一丁

「主」の左側に「アルジ」、
「難苦」に「ナンギ」というルビあり。

② 画面中央、一人の男性が二人の兵士に捕らえられる図。左側後方で三人の兵士に連れられていく二人の人物に手を伸ばし、何かを訴えている。舞台は大陸か。

③ 高□画
年親校

④ 上部中央に画鋸によると思われる穴傷あり。上方左側、擦れによる汚れ、毛羽立ちあり。
枠外右下に「宮木印B」、制作者の

名が記された枠内右下に「宮木印C」がある。

⑤ 二〇摺

五十七、 二九帖目 裏



① 錦絵修身談巻六

(二) 忠憤空しか□す未代□表の榮を受く 一丁

② 一人の武将が墓石に右足をかけ、右手に持った長棒を振り落とさんとする図。墓には「尊氏之墓」と刻まれていることが読み取れる。

③ 季□画
季親校

④ 上部中央に画鋸によると思われる穴傷及び錆び汚れが多数ある。下方

右隅の擦り汚れ、毛羽立ちあり。左端の切り落とし部分にそって、別紙の貼り残り痕が確認できる。

制作者の名が記された枠内左下に

「宮木印C」がある。

⑤ 一八摺

五十八、 三〇帖目 表



① 錦絵修身談巻六

(二) 蕩子 志 を改めて一郷の模範を□る 四丁

② 夜道、刀をさした着物姿の男が後方の白い衣に身を包んだ人物を見ようを振り向こうとしている図。木の

陰から覗き見している。墓場にあるような長い御札に文字が書かれたものが白い衣を纏った人物の両脇にある。

③ □□画

年親校

④ 上部中央に茶色の汚れあり。その付近に画鋸によると思われる穴傷あり。画中やや上方、人物の頭部のインクガ薄くなっている。枠外右下に

「二九」の鉛筆による書き込みあり。制作者の名が記された枠内右下に

「宮木印C」がある。

⑤ 十四摺



① 錦絵修身談卷六

② 三義を重じて利を忘る 六丁
画面右上に見えるついでにより
室内であることが分かる。一人の男
が刀を抜こうとしているのを二人
の男がとめようとする図である。

③ □□画

年親校

④ 中央上部に画紙によると思われる
穴傷あり。画面下半分に擦れ汚れが
あり、黒ずんでいる。

制作者の名が記された枠内右下に
「宮木印C」がある、

⑤ 十三摺



① 錦絵修身談卷六

(四) 貞婦父の教を守りて夫の望
を達す 七丁
畳を敷いた部屋に、女が何か願い事
を男に乞うている場面。男はうなず
き難いのか、腕を組み、首をかしげ
ている。二人の間には小判のような
ものが置かれている。窓からは松が
見える。

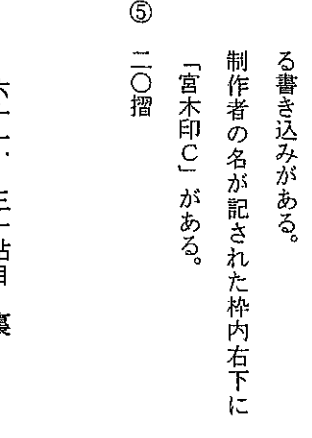
② 年重画

③ 年重画
年親校
綴じ側にそって浮き、染みがあり、
茶色に変色している。上部左辺に毛
羽立ちが見られる。画中、畳の上に
インクらしきもの小さな汚れが点
在している。上部中央に画紙による

④ 綴じ側にそって浮き、染みがあり、
茶色に変色している。上部左辺に毛
羽立ちが見られる。画中、畳の上に
インクらしきもの小さな汚れが点
在している。上部中央に画紙による

⑤ 二〇摺

とと思われる穴傷があり、錆びている。
枠外右下に「三〇」という鉛筆によ
る書き込みがある。
制作者の名が記された枠内右下に
「宮木印C」がある。



① 錦絵修身談卷六

(五) 勇心能く一郷の民を全くす
九丁
「二郷」の左側に「ヒト□□□」の
ルビあり。

② 道端で一人の男が、家来を引き連れ
た馬に乗った男と出会う場面。家来
は旗を垂直に立ち上げて持ってい

③ □□
年方面
とし親校
この名が記された枠内下部やや右
に「年方」の落款あり。

④ 中央上部に画紙によると思われる
穴傷あり。画面下半分に毛羽立ちが
多く、黒ずんでいる。
制作者の名が記された枠内右下に
「宮木印C」がある。

⑤ 十七摺

⑤ 十七摺



① 錦繪修身談卷六

(八) 諧謔の風諫能く主の過を改む 十六丁

② 画面左奥の玉座に座す皇帝に対し、部下がその過ちを説く図。画面右側に立ち皇帝に物申す姿に、画面左下の人物が声を掛けている。舞台は恐らく大陸であろう。

③ □□

年方画 年親校 □金刀

この名が記された枠内が珍しく黄で彩色されている。その上部に「年方」の落款あり。

④ 上部中央に画鋲によると思われる穴傷及び錆び汚れあり。上方左及び左側の切り落としにそって別紙の

貼り残しが見られる。

制作者の名が記された枠内中央や右上に「宮木印C」がある。

⑥ 十四摺

六十三 三三帖目裏



① 錦繪修身談卷六

(九) 勇将水□を砕きて敵軍を破る 廿丁

② 戦地にて武士達が見守る中、一人の武将が槍を持ち、大きな水甕を突き砕く図。画面上部には二つ雁紋の紋章が翻る。

③ □□

年方画

年峯校

年親

この名が記された枠内右下に「應齊年方」の落款あり。

④

中央上方に画鋲によると思われる穴傷あり。下方右側、枠線の擦れによる跡切れが見られる。上方左、紅色が枠より左方向にずれている。制作者の名が記された枠内左下に「宮木印C」がある。

⑤ 十六摺

六十四 三三帖目表



① 錦繪修身談卷六

(十一) 叡主よく人の過を恕す 廿五丁

「恕」の左側に「オモヒヤリ」のル

ビあり。

② 屋敷の中庭と見られる場所で、身分の高い上等な着物を着た男に、四五人の家来が土下座をしている図。背景には池が描かれている。

③ □□

年方画 年親校

④ この名が記された枠内中央やや右に「應齊年方」の落款あり。

⑤ 上部右辺に染み、左上部に毛羽立ちあり。中央上部に画鋲によると思われる穴傷があり、錆びている。制作者の名が記された枠内中央と画面下方右隅の二箇所に「宮木印C」が見られる。

⑤ 一九摺



① 錦繪修身談卷六

(十二) 身を殺して忠孝兩□□ら
全くす 廿六丁

② 場所は大陸であるうか。三人の人物が登場している。その内の中央の人物は腹に刀をさし血を流して床に倒れこんでいる。二人の男が駆け寄ろうとしている。

③ □□

年方画
季親校

この名が記された枠内右がわに「年方」の落款あり。

④ 中央上部に画鋏によると思われる穴傷あり、錆びて黒くなっている。右端全体にわたり毛羽立ちが見ら

れる。画面枠外下方左隅に「三三」の鉛筆による書き込みあり。

制作者の名が記された枠内左下に

「宮木印C」がある。

⑤ 一九摺

六十六、三四帖目表



① 錦繪修身談卷六

(十三) 貞婦□□を割きて夫を救ふ
二十八丁

② 場所は草の生い茂る岩山、大蛇が女の前に立ちふさがっている図。頭に布を被り、足袋、わらじを履いた女が跪き何かを乞うている。女の後ろに笠が脱ぎ捨てられている。大蛇は口を大きく開き細長い舌を女に向けている。

③ 亭齊□

季親校

画面下方右隅に「彫□金」とある。

④ 綴じ側にそって擦傷。上辺、左辺に毛羽立ちがあり、茶色に変色している。上部中央に画鋏によると思われる穴傷。

制作者の名が記された枠内下部と画面枠内下方右隅の二箇所に「宮木印C」がある。

制作者の名が記された枠内下部と画面枠内下方右隅の二箇所に「宮木印C」がある。